

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

視点1「課題意識の持続」	視点2「達成状況の把握」
学習課題を自分事として考え最後まで学習に取り組むため、児童生徒の必要感や目的意識等が単元を通して持続する授業	児童生徒が、単元で目指す児童生徒の姿（付けるべき資質・能力を身に付けた姿）を明確に共有し、その達成状況について適切な場面と方法で捉え、評価がなされる授業
【現時点での課題（授業者・学習者）】 ◎学習に興味をもち授業のねらいに沿って学習に取り組む。 授児童の興味を引き、課題を解決しようという気持ちをもたせる。	【現時点での課題（授業者・学習者）】 ◎全体学びやまとめ、振り返りの場面において、自分の考えを言葉で話すことができる。 授個々の考えが見て分かるような板書構想にする。

1 学年 算数科 単元指導計画

単元名 主教材： おおきいかず	日 時	令和4年10月27日（木）5時間目
	対象学級	綾織小 1年1組 6名
	授業者	教諭 高橋 礼
1 単元の目標 (何ができるようになるか)		
〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解することができる。	10を単位として数をとらえる力及び数の構成に着目して数の計算の仕方を考えることができる。	2位数や簡単な3位数を数で表すことのよさを感じ日常生活に活用しようとしている。
2 単元で取り上げる「数学的活動」 (何を通して育成するのか)		
(関連：A数と計算（1）) 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動を通して、数のまとまりに着目しながら、数範囲を40から120程度まで拡張し、2位数について大きさの比べ方や考え方を考え、日常生活に生かす力を育成する。		
3 単元の評価規準 (何が身に付いたか)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解し、120程度までの数を数え数字を読んだり書いたり、2位数の数の構成を加法や減法の式に表したりしている。	既習の数の表し方の仕組みを基に、120程度までの数の数え方や読み方、書き方を考え、言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して、簡単な場合の2位数の加法計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現したりしている。	数の構成を活用して数の数え方や加法計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

4 単元のゴール	(どのような力をつけるためにどんなゴールを設定するか)
<ul style="list-style-type: none"> 大きな数を数えたり、数字で表したりすることのよさを感じ日常生活に生かすことができるようにするために、自分のあさがおの種の数に正確に数えたり、友達のあさがおの種の数と比べたりすることができるようになることをゴールとして設定する。 	
5 単元の指導と評価の計画 (全14時間)	(単元をどうデザインするか)

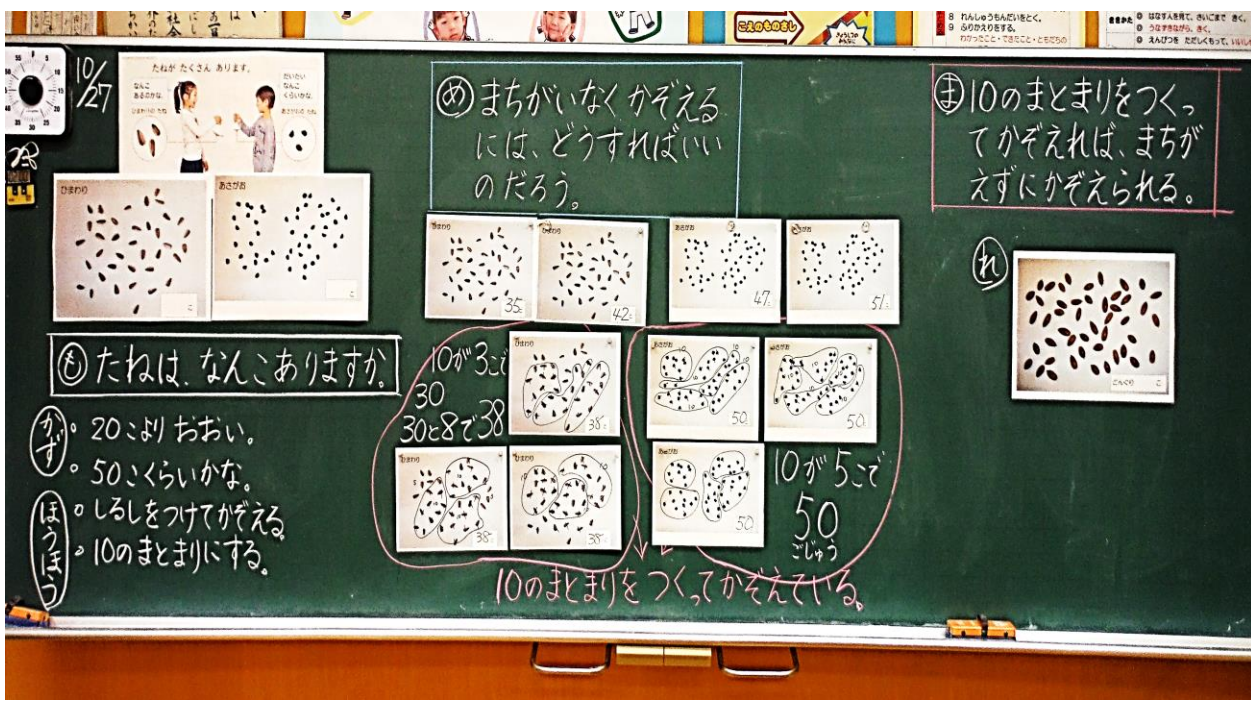
別紙 (4・5ページ)

6 本時の目標
<ul style="list-style-type: none"> 2位数の数え方、唱え方を理解する。

7 「本校の視点」+「遠野中学校区の視点」による本時の授業改善 (どのように学ぶか)	
A 本校の視点1 「算数的表現力の育成」	B 本校の視点2 「家庭学習を生かした学習内容の定着」
<ul style="list-style-type: none"> 自力解決後に自分の考えを説明することで、10のまとまりを作って数えると間違いなく数えられることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り後、プリント等で本時の学習内容を確認し、家庭学習で復習させ、定着を図る。
遠野中学校区の視点1「課題意識の持続」	遠野中学校区の視点2「達成状況の把握」
<p>ア 自分の育てたあさがおの種がいくつであるか数えることが学習のゴールであることを知らせ、本単元でどのようなことを学習していくのか掲示しておき、児童に知らせることで学習の意欲を持たせる。</p> <p>イ 「10よりおおきいかず」で学習したことを想起させることにより10のまとまりを作ればよいことに気付かせる。</p>	<p>ア 全体で学習したことを基に、適用問題に取り組み達成状況を把握する。</p> <p>イ 大きい数を数えるときはどのようにすれば間違いなく数えることができるのかという視点で振り返らせることにより、学習したことの理解につなげる。</p>

8 板書計画等	(学びの可視化をどうデザインするか)
---------	--------------------

10/27



9 本時の展開 (1 / 14)		(本時をどうデザインするか)
	学習活動および学習内容	指導上の留意点
導 入 5 分	1 単元の学習内容を知らせる。 2 既習の学習内容を確認する。 ・10が2つで20、30と4で34。 3 問題を把握する。 かねは、なんこありますか。	・自分たちの育てたあさがおの種がいくつであるか数えることが学習のゴールであることを知らせ、本単元でどのようなことを学習していくのか掲示しておき、児童に知らせることで学習の意欲をもたせる。 <①ア> ・10より大きいかずの学習を想起させる。 ・3種類の種の写真を見せる。2種類は展開で取り上げ指導する。最後のひとつは適用問題として学びを生かして学習させる。
	4 本時の課題をとらえる。 まちがいなくかぞえるには、どうすればいいのだろう。	
展 開 25 分	5 見通しをもつ。 <答えの見通し> ・20よりもおおい ・50こくらいかな <解決方法の見通し> ・印をつけながら数える。 ・10のまとまりをまるで囲んで数える。 6 課題を自力解決する。 ・各自プリントに書き込みをしながら、種が何個あるのか数えていく。 <期待する児童の考え> ・10のまとまりでくくる。 ・数えた種に線を引いていく。 ・10のまとまりのわきに「10」と書く。	・種の写真が、10のまとまりになっていることに気付かせる。 ・「10よりおおいかず」で学習したことを想起させることにより10のまとまりをつくれればよいことに気付かせる。 <①イ> ・数えた種に印をつけたり、10のまとまりに印をつけたりしながら数えさせる。 <思・判・表>数えた種に印をつけたり、10のまとまりに印をつけたりしながら数えている。(ノート・発表)
	7 学び合い (1) ペア学習 ・友達に自分が数えた数え方を説明する。 (2) 全体学習 ・考えを発表する。 8 学習のまとめをする。 ・本時で学んだことを発表する。 ・まちがいなく数えるためには、10のまとまりを作って数えるといい。	・友達に説明することで、10のまとまりにして数えると間違いなく数えられることを理解させる。 <A> <態>既習を基に、2位数の数え方や読み方、き方などを考えようとしている。(観察・ノート)
終 末 15 分	9 適用問題に取り組む。 ・最初に見せた3つ目の写真の種を数える。 10 学習の振り返りをする。 <期待する児童の反応> ・10のまとまりになるように印をつけて数えていくと正しくかぞえられました。 ※家庭学習の確認 11 次時の学習の見通しをもつ。	・3つ目の種の写真の数を数えることに取り組みせ、達成状況を確認する。 <②ア> ・まちがいなく数えるためにはどうすればよかったのかという視点で振り返らせる。 <②イ> ・宿題プリントで本時の内容を確認し、家庭学習で復習させる。 ・次時は、2位数の構成と表し方を学習することを伝える。

